

(国) 福島大学

行政政策学類

キャリア教養学科 (あさか開成高校出身)

(※2022年度入学者から新カリキュラムとなります)

Q.編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

高校3年生の時の受験が上手くいかなかった際に、担任の先生に編入学という道もあることを教えてもらい編入を考え始めた。編入学の道を選んだ理由は、自身が目指す4年制大学で学ぶということを諦めきれなかったため。

Q.編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

編入に関する授業の履修。

Q.実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

- ・2年生の前期：小論文添削（三瓶先生）
- ・夏休み：志願理由書添削（三瓶先生）

Q.編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

【英語】

1年・2年の前期までは編入の英語授業の復習や予習で対策していたが、夏休みからは「やっておきたい英語長文」の教材を使用して学習に取り組んでいた。また、1年の2月頃から2年の7月までTOEICを毎月受験することで、長文や文法、単語の学習に繋がっていた。

【小論文】

2年生になってから雑誌AERAに掲載されていたコラムを書き写したり、要約したりしていた。また、志望大学の過去問に取り組み、三瓶先生に添削をお願いしていた。

【志望理由・面接対策】

夏休み中に、自身の卒業研究の目的や内容を明確化させ、それらをもとに志願理由書の作成や面接対策に繋がった。

Q.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

キャリアデザインの授業で学んだ小論文の書き方に関する学び。文章力や語彙力、全体の構成について学んだことで一貫性や説得力のある文章が書けるようになった。

Q.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

とにかく卒業研究に力を入れるということ。志望理由書に作成や面接対策は卒業研究が進んでいないとできない。

Q.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

①第一志望の大学に落ち、絶望しかない状態だった。編入に挑むという選択に対して不安の気持ちが大きく、自分にできるか心配だった。

②当時の自分にとって編入しかもう道がなく「できることはやろう」と決心した気持ちだった。

③自身の努力が足りなかった気がして試験を受ける前から落ちたと思っていた。

④試験後、全科目でできた自信がなく、試験を受ける前以上に気持ちが沈んでいた。

Q.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

私の場合、モチベーションの維持が一番大変でした。どの学習に取り組むにしても自身の気持ちが大きく影響する気がします。適度に息抜きや友達や家族、先生に相談するなどすると良いと思います。試験を終えるまではあまり失敗のことを考えずに、夢ややりたいことの実現を目指して頑張ってください。